

創業・ベンチャー支援推進のための 取り組み事例

～「イノベーションの教室 FOR STUDENTS」にみる
起業教育の推進～

平成27年度復興金融ネットワーク 懇談会(起業・創業分科会)の議論 【課題】

学生を対象にした起業コンテストでは、
東北地方は応募等が多い方ではない。

若い世代の起業に対する意識やチャレン
ジ精神を涵養していくことが重要。

平成27年度復興金融ネットワーク 懇談会(起業・創業分科会)の議論 【今後の取り組みの方向性】

これから起業しようとする者へのサポートも重要だが、
起業・創業の裾野を広げるため、教育の段階から起業マ
インドを醸成することも重要。

大学、地方自治体、企業等が連携してオール東北として
教育に力を入れて浸透させていくことが重要と考える。

そのために、金融機関としても、応援できることは積極
的に実施していくべきと考える。

実施事例

「イノベーションの教室 FOR STUDENTS」

第2回

イノベーションの教室 for Students

イノベーションは特別なことじゃない
僕らにも変えられる未来がある
東北復興のためにできることがある

3/12 (日) 10:00 ~ 17:30

@INTILAQ 東北イノベーションセンター

日本を代表する企業が東北に集結！
大人たちと学生たちが一緒に
イノベーションについて考える教室です

参加無料
お弁当付き

—— ゲスト講演 ——
特定非営利活動法人アスヘノキボウ
代表理事 小松 洋介氏

学ぶ
～イノベーションってなんだろう？～

ディスカッション
～与えられたテーマに沿って議論しよう！～

メンターと一緒に創る
～メンターと一緒にビジネスプランを考えよう！～

発表する
～最後は参加者全員の前で想いをぶつけよう～



実施事例

「イノベーションの教室 FOR STUDENTS」

イベント概要

学生の皆さんと大手企業の若手社員の皆さんがチームを組み、事務局より提示された課題を解決するプランを考えるワークショップを中心としたイベントです。社会を知る大人たちと既存の常識にとらわれない学生たちが一緒に考えてイノベーションにチャレンジすることができます。

東北復興のために力になりたい、社会のことを深く知ってみたい、就職活動のことを漠然と考えているけど本当に自分がやりたいことは何か考えてみたい、大企業の社員とじっくり話してみたい、いろんな思いで参加できるイベントです。

開催日 平成 29 年 3 月 12 日 (日)

スケジュール

10:00-10:05 主催者挨拶 東北大学産学連携機構 総合連携推進部長 松井 康氏

10:05-10:45 ゲスト講演 『まずは動くことから始まるイノベーション』
講師 アスヘノキボウ 小松 洋介氏

課題となるテーマは
当日発表します

10:50-11:30 ワークショップ1
企業のメンターとチームメンバーの顔合わせ及びプランの方向性の検討

11:30-12:30 ランチミーティング 引き続きランチを取りながら議論を継続します。

12:30-13:20 イノベーションの考え方、プロジェクト・デザインのポイントについての講義
東北大学の土岐先生が午後のワークショップにつながるプロジェクト・デザインについての具体的な事例を通して講義します。

13:20-17:30 ワークショップ2 プランを具体化し、最後に発表します。

17:30-18:30 懇親会 (軽食、ソフトドリンクのみ。会費無料)



お申し込みはこちら <http://urx2.nu/AX22>



INTILAQ 東北イノベーションセンター



トヨタ、野村ホールディングス、三井住友銀行、
JR 東日本、日本航空、三井住友海上の社員の皆さんと
一緒にイノベーションプランを考えよう！



第1回の概要

- 日時：平成28年9月11日（日） 10：00～17：30
- 場所：I N T I L A Q東北イノベーションセンター
- 主催：東北大学、I N T I L A Q東北イノベーションセンター、
日本政策金融公庫
- 後援：仙台市（第2回から主催者）
- 協力：復興庁、（社）M A K O T O、（社）ワカツク、
リアルカレッジ、
オリンピック・パラリンピック等経済界協議会
**（トヨタ自動車、日本電気、野村ホールディングス、
三井住友銀行、J R東日本、日本航空、三井住友海上）**

第1回の模様



INTILAQ イノベーションセンター
(仙台市卸町)



高校生6名、大学生等37名
計43名参加

第1回 イノベーションの教室

for Students

『日本をリードする大人と一緒に新しいビジネスプランを創造しよう!』

東北のために将来ビジネスをやりたい! 東北から世界を変えたい!
...でも学生の私たちにできることはある?
そんな学生の皆さんにイノベーションを体験してもらうプログラムです。

参加無料
定員60名
先着当り

高校生・高専生
大学生
対象!

日時:平成28年9月11日(日) 10:00~17:30

各企業の豪華メンターがイノベーションの創出をサポートします!

トヨタ自動車 / NEC / 野村ホールディングス / 三井住友銀行 / J 東日本 / 日本航空 / 三井住友海上火災保険

〈当日プログラム〉

10:00 ~ 10:05 主催者挨拶 国立大学法人 東北大学 産学連携機構 総合連携推進部長 松井 康

10:05 ~ 11:00 講演 『クリエイティブ・コネクション——創造性への自信』
講師 東北大学大学院工学研究科フィールドデザインセンター センター長 本江 正茂

11:00 ~ 11:30 ミニピッチ (アンデックス(株) 鈴木 宝穂 氏 / リバティ 塚内 美智子 氏)

12:30 ~ 13:15 講演 『イノベーションの考え方、ビジネスプラン作成のポイント』
講師 日本政策金融公庫総合研究所グループリーダー 藤井 隆紀

13:15 ~ 17:30 ワークショップ
各企業のオーダーを踏まえた新ビジネスプランの策定

【オーダーの例: ドローンを使った全く新しいビジネスを考えよ!】
5~5人のチームに分かれアイデアを創出から事業計画策定までを行います。各チームのメンターと一緒にプランを考えましょう!

会場: INTILAQ 東北イノベーションセンター
(〒984-0015 仙台市若林区卸町 2-9-1)

お申し込みはこちら → <https://goo.gl/m2e1Rv>

おイベント情報ページ → <http://school-of-innovation.jimda.com>

発表する!

KIKO

INTELQが
会場!

学生スタッフのみならず

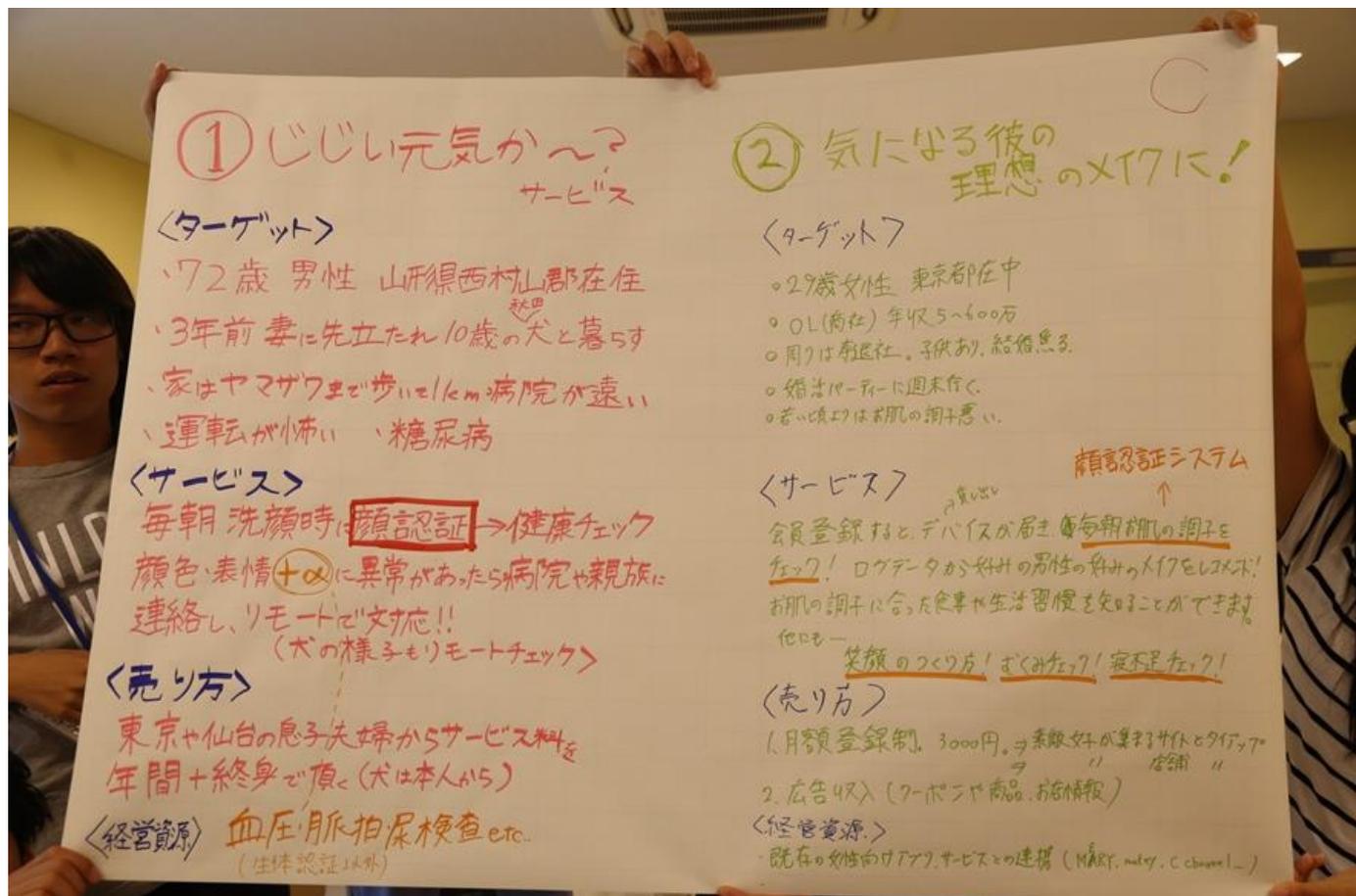
主催 JFC 日本政策金融公庫 TOHOKU INTILAQ 後援 仙台市 SENDAI CITY 協賛 復興庁 MAKOTO 経済界協議会 TOYOTA NEC NOMURA 三井住友銀行 MS&D 三井住友海上

第1回目のチラシ

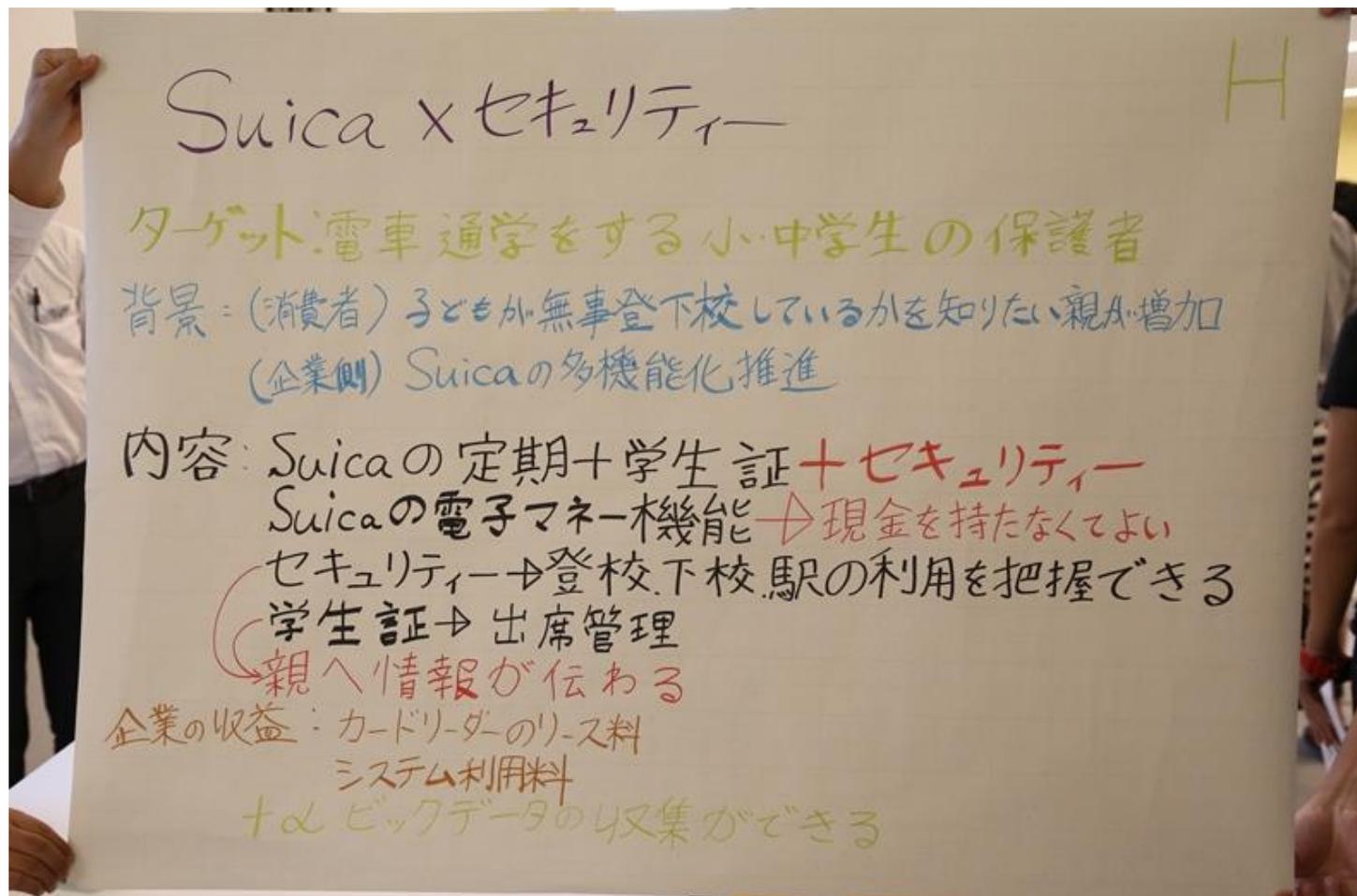
第1回の模様



第1回の模様



第1回の模様



第1回の模様

参加者の感想

- ・ 起業のノウハウに触れることができてよかった。
- ・ (高校生から) 大学生と議論するのが楽しかった。
- ・ 自分が今日ですごく高められた気がする。
- ・ 参加された企業のレベルが高かった。

アンケート結果ではワークショップの満足度は100%

【参考】

平成27年度復興金融ネットワーク懇談会(起業・創業分科会)の議論

起業・創業の現状の取組と課題

- 東北地方は、他地域と比べると、「西高東低」といわれるように、開業率は地域全体としては低位にある。そうした中で、震災後は復興の過程で起業しようとする動きもあり、特に宮城県や福島県では開業率が上昇している。なお、こうした背景には、復興特需を見越した建設・除染、運輸、中古車販売、飲食業が増えているといった要因があることにも留意が必要である。
- 第4次ベンチャーブームといわれる昨今、仙台市をはじめ各地の創業セミナーは以前に比べて活況となっている。こうした機運の中、復興の期間が過ぎても地域において起業・創業が活発に行われるようにつなげていくことが重要である。
- 東北地方は、起業に関するファンドや人的資源が少ないことが起業のネックとなっているとの意見があった。また、現状、東北地方の上場企業は、銀行を除くと少数であり、また上場企業も非常に大きい会社が大半であることから、地域で起業して企業が成長するような成功イメージを持ちにくいのではないか。
- 地方自治体が策定する「創業支援事業計画」の策定率は、全国的に見ても東北地方は低位にある。計画策定を通じて、地域における自治体、創業支援機関等が連携した起業・創業支援のための環境づくりの構築が課題となっている。
- 学生を対象にした起業コンテストでは、東北地方は応募等が多い方ではない。若い世代の起業に対する意識やチャレンジ精神を涵養していくことが重要。

* 平成28年2月11日「復興金融ネットワーク懇談会(起業・創業分科会)資料3-1最終とりまとめのポイント」より引用

【参考】

平成27年度復興金融ネットワーク懇談会(起業・創業分科会)の議論

今後の取組の方向性

○総論

- 活躍するベンチャー企業が出てくれば、周りの人々はあの会社があればだけでもいいなら自分達もできるだろうというライバル心が生まれてくる。1社出れば、それに続こうという会社も出てくる。経営者は大体同じレベルの人と意見交換している。一人の成功は、他の人への刺激となる。最初の成功例をつくるのが地域を押し上げるきっかけになると考える。
- 東北は遠くて不便という、一般の人が持っているメンタルマップ上のネガティブなイメージをなくしていくことが投資や人材の呼び込みの面でもとても重要。また、東北地方で起業をすることについて自治体等がもっとPRしていくことも重要。自治体等の支援メニューの案内は、利用しようとする者に分かり易くするなど、もっと情報発信に工夫をすべき。
- これから起業しようとする者へのサポートも重要だが、起業・創業の裾野を広げるため、教育の段階から起業マインド醸成することも重要。大学、地方自治体、企業等が連携してオール東北として教育に力を入れて浸透させていくことが重要と考える。そのために、金融機関としても、応援できることは積極的に実施していくべきと考える。

* 平成28年2月11日「復興金融ネットワーク懇談会(起業・創業分科会)資料3-1最終とりまとめのポイント」より引用